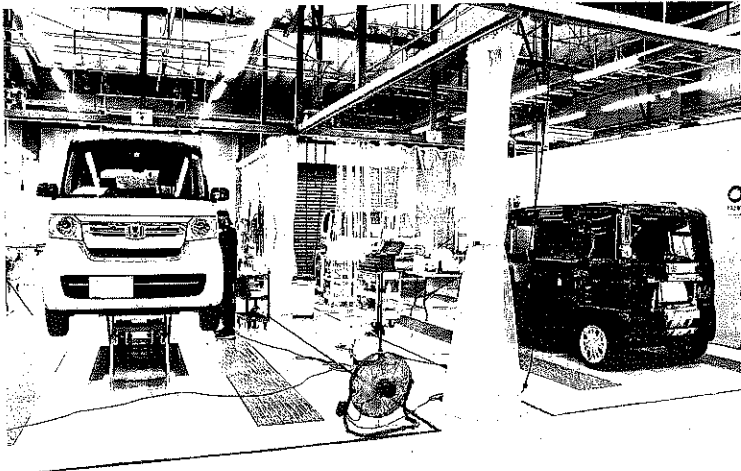


最新鋭の設備が整った同センター内の様子



東京オート
テクニカル
センター

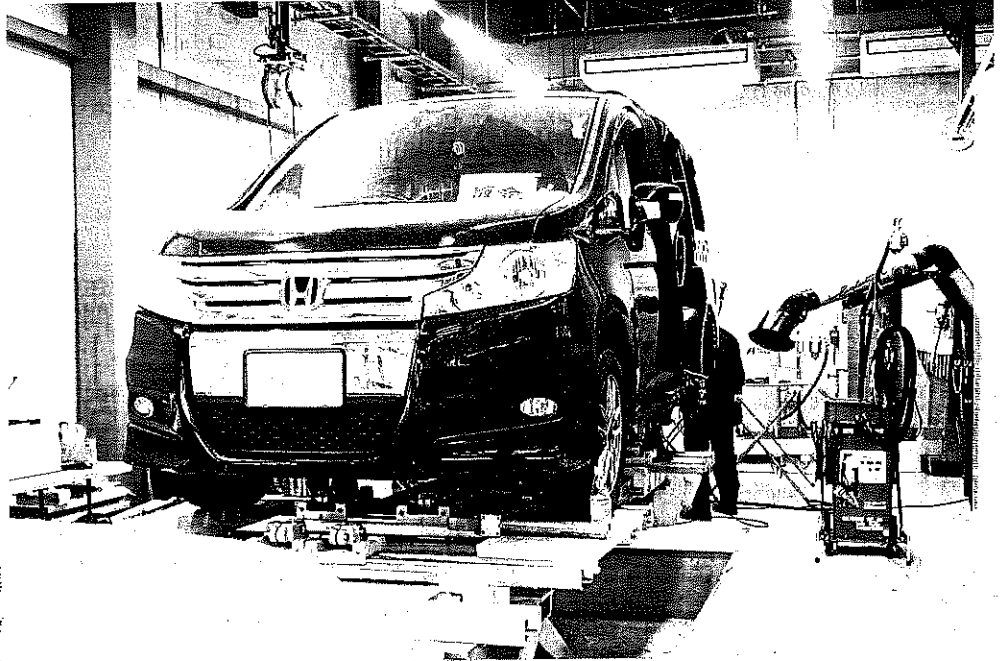
羽ばたけ
整備業

自動車整備および板金塗装(BP)業界は、急速に進化する自動車技術への対応が喫緊の課題となっている。東京オート(中村浩志社長、栃木県小山市)は、高度化する自動車技術に対応すべく人材育成や設備投資などを積極的に進めてきた。このほど同社が運営するテクニカルセンター(海老原譲治工場長、同)が、北関東エリアで初めてとなるテフラインランドジャパン(ジュネル・ペティット社長、横浜市港北区)のBP工場向け認証プログラムの最高ランクである「プラチナ」認証を取得した。同社は認証取得を足掛かりに、さらなる飛躍を目指す。

北関東初テフのプラチナ認証取得

輸入車修理にも対応する先進BP工場

同社は2022年7月、小山市中心部にあったグループのBP事業を担う「カスヤマイースター小山」を小山東部第二工業団地に移転、名称も新たに「東京オート テクニカルセンター」としてオープンした。テクニカルセンターは高度な修理技術と環境にも配慮した設備機器が求められる輸入車の修理にも対応する先進的なBP工場になっている。



フレーム修正機などで高度な修理にも対応する

新しい工場では、塗料などに含まれる揮発性有機化合物(VOC)規制の強化の動きに対応し、4年ほど前から水性塗料を導入するなど環境問題に取り組んできた実績がある。また、業務が年々拡大するなかで入庫車の保管場所確保が困難になってきたため、移転は喫緊の課題だった。そこで

新しい工場では、塗料などに含まれる揮発性有機化合物(VOC)規制の強化の動きに対応し、4年ほど前から水性塗料を導入するなど環境問題に取り組んできた実績がある。また、業務が年々拡大するなかで入庫車の保管場所確保が困難になってきたため、移転は喫緊の課題だった。そこで

高度な技術と設備を持ち環境にも配慮

同工業団地内に新たに6870平方メートルの土地を取得し、事務所棟とBP工場(計1566平方メートル)を新築、車両保管場所や駐車スペースなども大幅に拡大した。なお、今回の移転に向けて、設備の見直しなどで同業者への視察も行った。その中で残すべきところは残し、良いものは取り入れ、新しい工場に「中村浩志社長」を進め、業務改善や生産効率向上にも取り組んだ。

新工場の開設を視野に、移転の1年以上前から同認証の取得に向けた準備を進めてきた。プラチナ認証はテフ認定の中でも最高水準に当たり、欧州の大型乗用車まで含めた修理を想定している。認証取得までには法令順守やアルミの適切な作業環境など修理技術の品質、水性塗料の採用、工場運営や品質管理体制の構築、スタッフへの継続的なトレーニングなど230を超える項目で評価される。「輸入車や次世代自動車も含めてトータルで対応できる技術力と設備機器を持ち、先進自動車技術に対応できる」と(同)ことも認証の獲得に結び付いたようだ。

着々とテフのプラチナ認証取得に向けて取り組んできたメンバーが参加した認証式は笑顔があふれた。認証は約6割が東京オートだが、グループのホンダ系やフォルクスワーゲン系の販売会社なども約3割を占めている。しかし、「作業単価のアップやサービスの向上、業務の効率化、業務品質向上など取り組むべき課題は多い」と海老原センター長は指摘する。「グループだからと甘えることなく、作業内容や対応で満足してもらえようという気持ちが必要」と強調する。

同社は、テクニカルセンターを高難度整備や次世代自動車整備を担う技術者を育成するハブ(中核)拠点化も目指す。日本自動車車体整備協同組合連合会(日車協連、小倉龍一会長)が全国でハブ工場を認定し、車体整備や電子制御装置の整備などで周辺の小規模事業者と協業していくことを推進していることが背景にある。人材不足を抱える同業他社と技術対応など得意分野を生かした連携を図っていくことで地域事業者の活性化にもつながりたい考えだ。

同社はさらにカスヤマイースターの製作やキャンピングカーの修繕を手掛けるなど新たな分野への進出にも力を入れる。幅広い需要に応えながら、新たな顧客価値の創造に取り組む方針だ。

(関東支社・森 進吉)



着々とテフのプラチナ認証取得に向けて取り組んできたメンバーが参加した認証式は笑顔があふれた